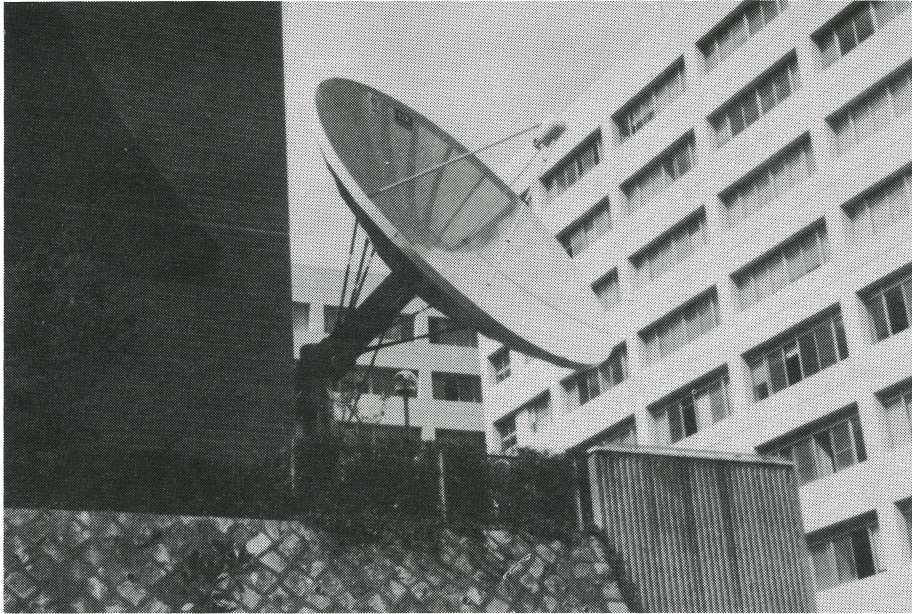


# AV JOURNAL

1988年12月 第14号



〈6mパラボラアンテナ — 図書館棟前〉

## 目次

「コミュニケーション研究教育センター」の構想……………視聴覚教育委員会…	2
〈海外放送受信システム〉について……………	5
星のささやき……………第二部英語学科 岡田 新…	5
「1988年度前期ビデオ鑑賞会」……………	7
私説『視覚映像文化論』その3……………	8
〈LL便り〉テープ・ライブラリー利用状況について……………	12
テープライブラリー・LL自習室利用状況統計表……………	14
〈出版物案内〉……………	17
映像資料(レーザー・ディスク)所蔵一覧……………	18
1988年度LL授業時間割表……………	20

大阪外国語大学

# 「コミュニケーション研究教育センター」の構想

視聴覚教育委員会

「コミュニケーション研究教育センター」構想は、効果的な語学学習法の開発・実践を行なうためには、「コミュニケーション科学」という新しい視点を導入することによって、実験的手法を大幅に取り入れた研究を行なうことが必要であり、よりよい人間理解のためにも総合的なコミュニケーション研究が不可欠であるとの認識から生まれたものである。ここではこの構想のめざすものと成立の経緯・現状について記し、大学の構成員諸氏の理解を求めたいと思う。

## ●はじめに

「現代の語学教育に視聴覚教育がきわめて大きな役割を果たしていることは言うまでもない。L.L.教室と言わずとも、今やビデオテープやオーディオテープが語学教育に果たしている役割とその効果を考えれば、より充実した、L.L.教室だけにとらわれない形の視聴覚教育体制を整備することが、大阪外国語大学の発展のために必要である。またこれは、他大学よりも充実した視聴覚教育体制を求めてやってくる多くの学生に対する務めでもあろう。」

一方、「大阪外国語大学における教育活動として一番求められているものは何か」と考えると、それは「いっそう効果的な語学学習(教育)法の開発と実践」であろう。それは人間のコミュニケーションの総合的な研究に基づいてこそはじめて可能になるものである。しかし残念ながら現状では、これを大がかりに、そして積極的にサポートし、かつリードしていこうという体制は整っておらず、先進的な学習・教育法を思い付いて実践しても大学全体に還元されにくいし、言語工学的な発想に基づく研究や応用を自由に行える設備も整っていない。

むしろ、本学は充実した語学教育サービスの提供が存在意義であるわけだから、現在のL.L.教室を中心とした視聴覚教育体制をより一層充実させ、これを足がかりにして「コミュニケーションの総合的研究と、いっそう効果的な語学学習法の開発」を行なう場とし、これをもって世界に誇れる大阪外国語大学の目玉商品とし、将来への大学のいっそうの発展のひとつの軸にすることが必要である。

こうした認識のなかから視聴覚教育委員会を中心

に生まれてきたのが、現在のL.L.体制を発展的に解消して「コミュニケーション研究教育センター(Research Institute of Speech Communication Sciences)」(仮称)を設立するという構想である。

## ●「コミュニケーション研究教育センター」の目指すもの

「コミュニケーション研究教育センター」という名称は、効果的な語学学習法の開発と実践を行なうためには、人間のコミュニケーションの総合的な研究が前提となるという認識に由来する。コミュニケーションの総合的な研究の成果を利用して、広く言語および非言語による対面コミュニケーションの諸側面の教育に対する実践的かつ理論的な基盤を与え、そしてこれに基づく言語教育を実践する場を目指すものである。

具体的には「コミュニケーション研究教育センター」は、まず**研究機関**として言語学だけでなく心理学、人類学、工学、医学の各立場からコミュニケーションを研究するための体制を整えるとともに、**教育機関**として上記の研究成果を利用した先端的な発想に基づいてL.L.教室を設計し、これを大阪外国語大学で行なわれる授業に提供し、これを通じて大学における言語の研究と教育のための個別言語の枠を越えた普遍的な共通の場を構築することを目指している。設置すべき研究教育講座の内容としては例えば3ページに示したようなものを現在考えている。

さらに、同センターは**サービス機関**として広く大学における研究教育活動に必要な視聴覚教育およびコミュニケーション科学に関する技術、設備及び視聴覚メディアに関する一切のサービスを提供すると

ともに、個別言語研究教育のために必要な視聴覚データベースを作成し、同時にセンターの所有する施設、設備、技術、資料、データを国内外の研究者に公開して利用に供し、現在諸分野に分散しているコミュニケーション研究と視聴覚教育研究の統合拠点としての責を果たすことを目指している。

さらに、専門研究者、専門技術者の養成をはかるために、また国内外の研究者、研修生を受け入れ、公開講座の開催などを通じて、視聴覚教育とコミュニケーション科学に関する専門知識、技術の交流と普及に努めたい。

「コミュニケーション研究教育センター」構想は、そのおおまかな方向性が視聴覚教育委員会で支持され、今年度の概算要求にも計画案を提出しているが、組織の細かな点について視聴覚教育小委員会が現在検討を行なっている。検討の成果を基に今年度内に拡大視聴覚教育委員会（公聴会）を開催する予定であるので、委員以外の教官の参加を期待している。

## ●研究教育部門の内容

### A. 《コミュニケーション活動研究系》

#### 1. コミュニケーション文化論講座

㊦ コミュニケーション社会心理学の研究。効果的な意志伝達のための心理面および社会学的側面からの研究。

㊧ 文化の差に由来するコミュニケーション・ギャップの理論的、実践的研究。

㊨ 動物のコミュニケーションの研究。

#### 2. 音声コミュニケーション研究講座

音声チャンネルを利用したコミュニケーション活動の研究。

〔伝統的な言語音声学の拡張〕

#### 3. 視覚コミュニケーション研究講座

視覚チャンネルを利用したコミュニケーション活動の研究。

〔文字、絵等による情報交換。表情、姿勢、みぶり、てぶり等を含む〕

### B. 《コミュニケーション教育系》

#### 1. コミュニケーション能力開発訓練講座

効果的な言語習得法の研究開発と応用。

〔応用言語学〕

#### 2. コミュニケーション技能教育講座

通訳(同時通訳)・翻訳の理論的研究と教育。

効果的な意志伝達のための基礎研究および応用。

#### 3. コミュニケーション教育ソフト開発講座

個別言語の教育ソフト、非言語コミュニケーションの教育ソフトの開発（AIによる対話型言語習得ソフト、video diskによる画像利用ソフトの開発）。

### C. 《コミュニケーション情報処理研究系》

#### 1. コミュニケーション工学講座

音声情報、視覚情報の伝達、処理法に関する工学的研究。

自動同時通訳を指向した自動言語理解システムの開発。

#### 2. 実験言語学・計量言語学講座

調査、実験に基づく言語学研究。

個別言語の音韻・形態・統語・文体・地域的特徴、位相差等の研究。

#### 3. 言語生理研究講座

㊦ コミュニケーションの神経生理学的研究。

㊧ 音声と文字の生成および知覚に関する生理学的研究。

㊨ 病理的コミュニケーション障害の研究、コミュニケーション能力の発達の側面的研究(言語治療論含む)。

## ●現行のL.L.体制との関係

「コミュニケーション研究教育センター」の目的を達成するためには、現在のL.L.体制をより発展させなければならない。

現在の本学のL.L.体制は、L.L.教室4室とビデオ教室、同時通訳訓練室、多目的AVホール、カセットテープ自習室、ビデオテープ自習室、教材作成室、スタジオなどからなる設備を図書館に属する視聴覚資料係が管理し、各学科から選ばれた委員で構成される視聴覚教育委員会がその運営を監督するというシステムである。図書館L.L.教室で開講されている授業は全学科あわせて毎週120ほどあるが、このうち3分の1以上を外国人教官が担当しており、一般関連科目の授業も一部ここで行われ、本学における視聴覚教育の中核となっている。

しかし、現状は、サービスの面でいえば、

(1) ビデオテープの普及に伴って近年L.L.教室の使用希望が急増し、希望しても受け入れ不可能な時

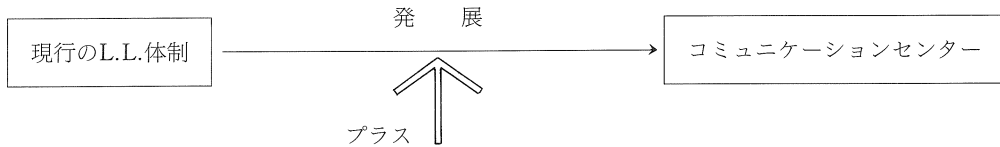
間帯が多くなっており（AVジャーナル各号末のL.L.教室使用時間割参照）、

- (2) またそのために2名の係員とアルバイトではL.L.授業の十分なサポートができなくなっている。また教育・研究内容の面では、
- (3) 視聴覚教育の効果をあげるための理論的バックアップの機能がきわめて弱く、特に、心理面、社会心理面、工学・医学面からの研究が大阪外国語大学には欠如しており、
- (4) そのような研究の基となるべきところの設備と専門の研究者がまったくといってよいほど存在しない。

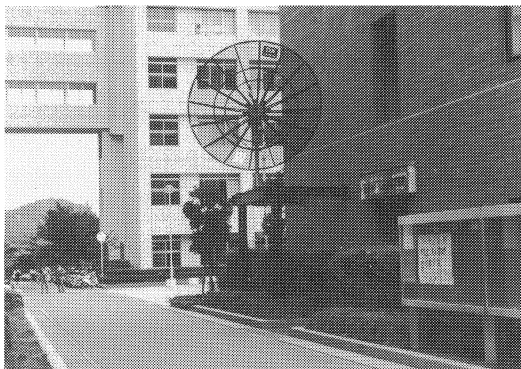
下の概念図のように、「コミュニケーション研究教育センター」は現在のL.L.体制が抱えるこのような

問題点を克服しながら、現行のL.L.体制を発展的に解消し、これにコミュニケーションの総合的研究を通じて、いっそう効果的な語学学習法の開発を行うための理論的バックアップの機能を付け加え、そのことによって同時に大阪外国語大学を視聴覚教育のメッカ的存在にし、学内視聴覚教育関連サービスの強化を図ろうというものである。

こうした構想は急に現れたものではなく、1979年の大阪市から箕面市への大学の移転と前後して複数の案が発案され、その後徐々に名称を変え、それに伴って目指すところも微妙に変わりつつ、視聴覚教育委員会、将来計画委員会等での議論を経ながら概算要求を続け今日に至ったものである。



<p><b>コミュニケーションの総合的研究を通じて、いっそう効果的な語学学習法を開発するための理論的バックアップの機能強化</b></p> <p>特に、従来大阪外国語大学にはほとんど欠如していた心理面、社会心理面、工学・医学面からの研究をも統合し、総合的なコミュニケーション研究を行う</p>
<p><b>大阪外国語大学を視聴覚教育のメッカ的存在にする</b></p> <p>そのために、視聴覚教育情報とノウハウを徹底的にここに集中させて情報と設備を全国共同利用とし、国内外から研修生を積極的に受け入れるための体制を整える</p>
<p><b>学内視聴覚教育関連サービスの強化</b></p> <p>L.L.授業を現場でサポートする体制を強化するとともに、視聴覚設備を用いて行う専攻科目、関連・研修外国語科目、一般・関連科目の授業の場を提供する</p>



## ＜海外放送受信システム＞について

「海外放送受信システム」とは、いわゆる人工衛星（静止）から、アメリカ、ソビエト、中国のTV放送を受信し、リアルタイムな映像を放映するシステムであり、今春に設置されたもので、以来本学の視聴覚教育のサービスの向上に多いに貢献している。現在のところは、アメリカのAFRTS、ソビエトおよび中国（映像状態は若干悪い）の国営放送が、

大口径のパラボラアンテナを通して受信され、LL教室だけでなく、各共同研究室や学生控え室等に終日送り出されており、外国語教育、学習の効果的な環境を提供するものである。リアルな外国語資料に接することのできる状況を日常化することは、現在最も大学に要請されているし、それに対する効果が期待されるものである。

### ※ヘッドエンド装置からの出力チャンネル

CH	番	組	設定チャンネル	CH	番	組	設定チャンネル
VHF 2	NHK総合		2	UHF 15	中 国		3
4	毎 日		4	17	ソ 連		5
6	朝 日		6	19	テレビ大阪		
8	関 西		8	21	自主放送(VTR)		7
10	読 売		10	25	BS-11CH、NHK 1		9
12	NHK教育		12	27	BS-15CH、NHK 2		11
UHF 13	アメリカ(AFRTS)		1	36	サンテレビ		

## 星のささやき

### 第二部英語学科 岡 田 新

衛星放送が本格的に利用されるようになり、文字どおり、地球上のあらゆる地点が、一瞬のうちに結ばれるようになった。今や我々は、単に経済ばかりでなく、文化の上でも、刻一刻と確実にせばまってゆく世界の上に暮らしている、と言わねばならない。このことの持つ人類史的な意味は、まだ微かに感じ取られているに過ぎない。しかしおそらく人類は、メディアによってつながれた地球規模の共同体の形

成へと急速に向かいつつあるといっても、決して誇張とは言えなくなってきたのである。

言語の習得にとっても、文化の総体を理解する上でも、テレビやビデオが無尽蔵の可能性を秘めていることについては、改めて論じるまでもない。映像の送る情報の量は、活字や、音声のそれとは、比較にならない膨大なものである。実際短波ラジオにかじりついて、雑音の中に伝えられる異国の動静に耳

を澄ませてきたものにとっては、衛星放送の送ってくる画像の臨場感は、圧倒的という他はない。これまでひたすら短波のBBCに耳を傾けていた私は、衛星放送で流されるようになったBBCのニュースやドキュメンタリーを、イギリス政治を勉強する者としてのいわば職業的義務として、欠かさず見るようになった。おかげでイギリスの政治と社会の現在は、手に取るようにわかるようになった。日本でほとんど報道されない北アイルランドの凄惨なテロの様相も、思わず目をそむけたくなくなるようなすさまじさで伝わってくる。この点で私は衛星放送に大いに感謝している。

しかしこうした衛星放送を教育に使うためには、かなりの準備が必要である。もちろんNHKが、テロップをつけてくれている報道番組やドキュメンタリーなどは、当該の国の社会や文化を知る手がかりとして、すぐに使うことができよう。映像時代の今日、これだけでも確かに貴重である。イギリスの福祉国家の改革を報道したドキュメンタリーに登場する生活にあえぐ老人の姿は、いやがおうでも、見る人にその深刻さを思い知らせるであろう。ホモセクシュアルのカップルに祝福を与える英国国教会の牧師の姿を見て、悩めるイギリスを実感しないものはないであろう。事実、こうしたドキュメンタリーを見た学生の中には、強いショックを受け、理想化していたイギリス像を打ち砕かれたと語る者も少なくない。

だが言葉の勉強という点では、英語の場合でも、テレビのニュースが正確に理解できるようになるには、かなりの語彙数と慣れを必要とする。このことは、NHKのテロップできえ、時折とんでもない誤解をしていることから了解できる。Woolsackが、上院議長であるLord Chancellorの座席であり、下院のfront benchとback benchとの間には根本的違いがあることを知らなければ、イギリスの議会報道を理解することは難しいであろうBBCが、ニュース用語の解説のための番組を持っていることを改めて想起すべきである。丁寧に事件の社会的歴史的背景を説明し、特殊な語彙を解説して組織的な準備を予め行わないと、衛星放送の教材としての価値がどれほどあるのかは、はなはだ疑問というべきであろう。もちろんわからぬままに、耳に慣れさせるという方法もあるだろうが、それには余りに時間が限られて

いる。まして雑音が多く、映像さえ不安定なチャンネルについては、どう使ったらいいのか、小生には今のところ見当がつかない。

視聴覚教育の専門家の方々は、もちろんこの辺は十分に検討されて衛星放送のシステムの予算を請求され導入されたのであろう。どの様に使うのが最も賢明であるのか、どの様な教材や教育法をこのシステムを使ってやる計画であるのか、この点を素人にも是非御教示頂ければ誠に幸いである。巨大なパラボラアンテナのようなハードだけがいくら先行しても、小生のように使う側にソフトの知識がなくて持て余してしまっただけでは、全くもったいない。

ずぶの素人として幾つか要望を述べておくとすれば、映像教材を実際に活用するためには、まずハードの面で、各教室にビデオ装置をつけるか、移動式のビデオをたくさん用意することが必要ではないかと思う。できればその際には各国のビデオを自由に映せるマルチ・システムの装置を設置して頂きたいとも思う。しかし、おそらく最も重要なのは、ビデオを計画的に収集し、それを教材として使えるように準備する体制であろう。放送番組を系統的に録画し、映画のみならず世界各国の教養、教育用のビデオを集め、ビデオ毎に聞き取りのポイントや、語彙の解説を盛った教材を作ってゆく必要があると思うのである。巨額な国民の税金を投じた施設を活かすには、こうした体制の整備を真剣に考える必要があるのではなかろうか。

いずれにせよ、どんどん巨大設備を作ることも結構であるが、教育の現場に使いやすいように、流行の表現で言えば「ユーザー・フレンドリー」に施設の配置、利用規則、そして教材の整備を考えて頂けないものであろうか。教育、研究のための施設であるのだとすれば、教育、研究の方法論が前提でなければならぬ。またそれを実際に担う人々の意見にじっくり耳を傾けるのが必要であろう。そうでなければ、軍事基地を思わせるあのものものしい景観にもかかわらず、衛星放送設備は、実は大リーグの観戦のためのものにすぎなかった、等という喜劇的状況が起ころぬとも限らないのである。

電子の星のささやきに耳を澄ませば、世界がずっと近くなる。そんな合言葉だけでは、世界はちっとも開かれないのである。

## 「1988年度前期ビデオ鑑賞会」

### ● AVホールでの上映 12時50分—14時50分

'87年度ベスト20の内の字幕スーパーのものより10を選んで下記の時間帯に上映致しますので、ご参加下さい。

6月9日	ローマの休日	1'58"
16日	カサブランカ	1'45"
23日	第三の男	〃
30日	2001年宇宙の旅	〃
7月7日	哀愁	1'49"
9月22日	終着駅	1'30"
10月6日	サイコ	1'48"
13日	ひまわり	1'47"
20日	郷音—ふる里のしらべ—	1'25"
27日	市民ケーン	1'59"
11月10日	旅情	1'40"

### ● 3階ビデオホールでの上映 13時30分—14時15分

今回昨年度NHK教育テレビスペシャルとして放映された、文芸評論家・加藤周一監修の『日本・その心とかたち』(1987.10.—1988.3.)全10本を紹介することにします。ますます国際化の波にもまれる現代日本、そうした時、日本の伝統的な美を世界的な視野の中から問い直してみようとした加藤氏のこのプログラムは国際人として将来活躍される外大生のみなさんにとって知識の定礎になるでしょう。特に西洋語学科の生徒さんには鑑賞していただきたい比較文化論のエッセンスを含んだ番組です。

加藤周一と言えば、1955年雑誌『思想』に発表した「日本文化の雑種性」は今でも価値を失わない説得力のある評論です。高校の現代国語にもよく引用されますから、知っている人も多いことでしょう。明治以降の日本社会を分析の対象として、社会の下部構造だけでなく、上部構造までも、正に日本人一人一人の骨髄(こつずい)に至るまで西洋種の文化が深く浸透していると結論付けています。

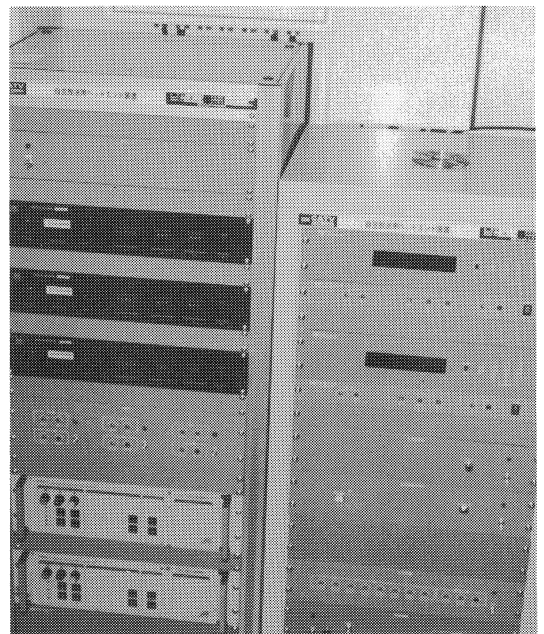
それから序でながらに述べておきますと、「国家は少数の異常な人々を挙げて、その名誉を誇るかもしれない。しかし一国の文化程度の現実、普通の民衆がどれだけの生活を持っているかで判断すべきであろう。その著しい反映は、彼らの日々用いる器物

に現れる」(『民藝40年』)と言った陶芸家・柳宗悦の評論「雑器の美」(1926年越後タイムス)などを読んでみるのも伝統を考える上で刺激的なことでしょう。実用性と芸術性が一体をなす雑器(日々生活で用いる器物)の《形の美しさ》を分析してみるのも日常生活の知的な掘り起こし作業という点できっと面白い発見が期待できます。因に柳宗悦全集は図書館の開架図書ですから、簡単に探し出せます。

これから10週間みなさんそれぞれの視点で《日本の美》をじっくりと再発見してみてください。

### 【日本・その心とかたち 1～10】

6月9日	はじめにかたちありき	45"
16日	神々と仏の出会い	〃
23日	現世から浄土へ	〃
30日	水墨・天地の心象	〃
7月7日	琳派・海をわたる	〃
9月22日	手のひらのなかの宇宙	〃
29日	浮世絵の女たち	〃
10月6日	幻想に遊ぶ	〃
13日	東京・変わりゆく都市	〃
20日	21世紀への冒険	〃



〈海外放送受信装置 ヘッド・エンド部〉

## 私説『視覚映像文化論』

〔その3：冬季カルガリー・オリンピックと  
シュレンドルフ監督作品『スワンの恋』（1983）〕

ポルトガル・ブラジル語学科 林 田 雅 至

●今回原稿を書くにあたって『カルガリー大会総集編』（NHK総合3.6放送分）を再度じっくりと観た。僅か数ヵ月前の同時間的な感動と興奮を余所に、5種類のトリプル・ジャンプを7回非の打ちどころなく見事に成功させ flying woman の異名をとり技術点世界一を誇り、オーバル・リンクの観衆を熱狂させ、万雷の拍手喝采を浴びた銀盤に舞う日本的な面立の高校生の演技は、特に他の外国選手のそれと比較してみた時、妙にぎこちなく型に嵌（はま）り過ぎた感がある。つまり、稠密性（ちゆうみつせい）に難があって動作が連続的な流動感を帯びていないのである。これは演技そのものにけちをつけているのでは決してない。コンピューター制御のハイテク・リンクとも言われた同じリンクで連日世界新ラッシュに沸いたスピード・スケートのレース。室内温度・氷の硬度そして勿論レース・タイムに至るまで高度に管理されているが故に1/100秒単位が冷徹にそして微妙に順位を左右し、各選手に競技の上で鎬（しのぎ）を削ることを強いるレース……その女子部門で参加選手中唯一人全種目出場を果たし、しかも所期の目的を達成し、すべての種目に入賞した小柄な日本人女性のスポーツマン・スピリット。これまでの hungry な精神に裏打ちされた泥だらけ・汗まみれの根性＝スポーツマン・スピリットとは明らかに一線を画する、中産階級の物質的な豊かさを背景にした精神領域の厳格な自己審査を怠ることを決して知らない新しいタイプの《大和撫子》魂とも呼び得る《運動・精神》……それにいたく感服する一方で、大会前の不調を吹き飛ばす勢いで長距離3,000mに世界新記録で優勝し、余勢をかって残りの長距離2種目にもいずれも世界新を樹立して新しい女王の地位に君臨することになった北欧系の逞しい体軀を持った金髪のアランダ選手を見ていると素朴に日本選手が報われないなあという意味で思わず落胆の溜息をこぼしてしまう。2人の日本人女性は何故勝てないのだ

ろうかと自問してみるが、すぐに答えは出てこない

●唐突の感の譏（そし）りは免れないが、日本人の美的感受性に変化が起きているのではないだろうか、と自問し、僕はマイナスの方向にこの感受性が退化していると自答する。子どもの生活と感性教育研究会の保育園児を対象にした五感調査によると、味覚はともかくとして嗅覚による果物・野菜の見分ける能力は全くひどい、と朝日新聞・天声人語（1988.5.5）にある。ダイコン・ニンジンが消しゴム・石鹼、イチゴをレモンと答える子どもが現にいるのである。年間降水量の高い日本で酸性土壌の生活空間の中から野菜食は伝統的に生まれてきたのであって、僕たちは本質的に筋金入りの菜食主義者であり、ニューヨーク界隈の俄仕込みの vegetarian とは言ってみれば、年季の入りが根本的に違うのである。世間では《肉食のすすめ》がやたらにかまびすしいけれど、その歪みの一つの現われが中学・高校生の骨折の多発だと思う。やはり何千年の歴史と伝統の中で培ってこられた日本人の理想的で現実に即した体軀というものが《食の革命》によってバランスを失っているのであろう。バランスを欠いた食生活で出来上がるバランスのとれていない肉体。そしてその不均衡な肉体の牙城に築かれる脆い、というよりもこれまでの伝統的な基準の尺度に合わない混乱した精神。この乱れた精神から導き出された混迷の感性。子どもたちは五感に混乱をきたしているのである。貿易黒字の解消・貿易摩擦の緩和のために牛肉の輸入自由化が行なわれようとしているが、経済的な不均衡の代償に今後日本人が自然環境に相反する形で大量に牛肉を摂取するようになったとしても、新たに個体に栄養学的にも生物学的にも不均衡を招くだけでなく、何十年単位で感性的な精神の不均衡を長引かせてしまうのは必至である。勿論肉体的にも精神的にも新たな均衡・平衡感覚が徐々に生み出され、従来の感性基準との相克・葛藤の中でそれが保持・



形成されていくであろうから、それは僕が徒（いたずら）に抱く極めて個人的な先立つ心配・杞憂に過ぎないのであろう。しかし現時点では同時代人として現実を観察し、いざ美的感受性ということになるとどうであろうか。混乱・動揺してしまっている美に対する感性的な価値基準の、言わば《侵入の余地のある隙間・空間》に、東北地方の座敷童子\*に典型的な例を見るようにプレ・アニミズム\*\*とアニミズムの境界領域に立脚する、換言すると／物的崇拜／と／定まった特定の靈魂に対する崇拜／の狭間にある日本人の原初的な宗教感情が侵入し、その揺らいでいる基準を何とか確固とした安定性のあるものにしてと導入したものが、技術一辺倒の経済大国の過度な自信と奢りに由来するとしか他に言いようのない、つまり経済を要因とする《技術的なもの・人工的なもの》に対する崇拜であったと僕は判断しているのである。それは具体的な例としてスピードのあるものは自動的に美しいという価値感を急速な勢いで作り出していった。ひょっとすると、ジョージ・ルーカス監督『スター・ウォーズ』(1977)の物理的なスピード感に活劇的な面白みを感じずることはできて

も、シドニー・ルメット監督『未知への飛行』(1964)、スタンリー・キューブリック監督『2001年宇宙の旅』(1968)の持つヴィヴィッドな社会問題を孕んだ物語性に富むスピード感をトータルに捉えることは今難しいのかもしれないとふと思う。スピードのあるもの……それは昨年10年ぶりに開催された日本F1グランプリ（'87年F1世界選手権シリーズ第15戦・1988.11.1）であった。日本の経済力を遺憾なく発揮して十全に整えられた会場。とにかくマシンが速いのは事実である。そのスピードを生み出す技術力。確かに'87年度日本の自動車会社がチーム・チャンピオンに輝き、その技術力は改めて世界的に認められた。そこからくる自信は当然持っていいはずである。しかしここに美的な価値観が入り込み、共存を始めたのである。技術という目にみえない《神霊的な存在》が現世的に化身することによってあたかも座敷童子にたとえることのできる自動車という所産・具象物となり、その超人的な（当然のことであるが）スピードによって畏怖と尊敬の対象、即ち崇拜の対象となりうる資格を獲得するのであり、その霊的な存在に対する信念への呼び水となったのである。あたか



ゲルマント公爵邸で催された音楽会の一場面（映画『スワンの恋』より）

もこの此岸的な力（技術）を有する被造物（技術者）は結果的に即身成仏の国らしく、どうやら実質上神格化されてしまっているようである。だからこそ、この神格化のおかげで被造物が獲得した神の似姿という視覚的なイメージは平信徒たる技術信者たちに無意識ながら／美しい／という美的感受性に関わる形容詞的概念を自然と所有させることになるのである。そしてその力の宿る自動車が神の似姿の間接的・仲介的な投影による《視覚的な錯覚》によって偶像崇拜化されるところに、別の言い方をすれば、全世界規模において同時代の他の国とは比較にならぬほど物質・機械文明が半ば人々を魔術的に呪縛する形で過度に浸透し、既にSFの世界で想定される近未来化を成就しながらも、人々の精神構造は相変わらず前近代的で旧態依然としているところに、特に厳格な一神教に帰依する外国人の観点からみた場合、現代日本の難解さ・分かりにくさが存しているのであろう。神概念不在の墮落した偶像崇拜を難じ、アグレッシヴにそれを攻撃するというのはそれはそれとして筋の通った無理からぬ、しかし逸脱した暴挙である●女性にとって難易度の高い3回転ジャンプを連続7回成功させたからといって、それは《技術の女神》が微笑んだ勝利であって、技術点ナンバーワンを誇るの日本人の芸術的な意味での美的感受性の後退現象を白日の下にさらけ出すことになるだけである。結果的に日本人としてのその誇示が技術的・経済的に羨望の眼差しを向ける世界中に対して却って挑戦的な態度で臨むことになり、益々彼らに劣等コンプレックスを与えはしまいかと懸念してしまうのである。一方、スピードだけが命のスピード・スケートでの敗北は精神性抜きの《技術崇拜の価値観》がパラドキシカル（逆説的）に作用してしまったのである。技術崇拜の価値観の源は不安定な食生活が引き金となった精神・感性の混乱であった。技術に優先権を与え、それを克服し、世界に挑戦したとしてもレースに要求されるのはスケート・シューズと氷と肉体を三位一体としてバランスよく操る選手の技倆であるはずである。技倆とは単に技術だけを意味するのではなく、それプラス選手各個人が持つ様々な芸術的なセンスであると言える。後者が欠けていたところに決定的な敗北の要因があると僕は考えている●今度は文字通り芸術の領域における、ここで言っている技倆について語ってみよう。バイ

オリンはオーストリアで完成されたヨーロッパ音楽の代表的な最高の弦楽器である。けれども楽器の構造に目を向けてみると、木部は松かかえでであり、弦は元来羊の腸を干して固めたものであり、弓は馬の尻尾である。そうしてみるとこの楽器の原型は中近東辺りで発生したものであることが分かり、その演奏者は当然中近東の遊牧民族ということになってくるであろう。バイオリンの演奏技術＝技倆に優れた能力を発揮する演奏者にユダヤ人が多いのは決して偶然の一致ではない。何千年にも互る生活環境の中で歴史的・伝統的に培われてきた弦楽器に対する慣れ・親近感こそがユダヤ人を世界のトップ・クラスのバイオリニストに育て上げたと言っても過言ではないだろう。ジョセフ・ヨアヒム、オデッサ生まれのダヴィット・オイストラフとその子イーゴリ、ロシアのヴィルナ生まれのヤツシャ・ハイフェッツなど枚挙に遑がないのである。僕が今調べているバイオリニストにポーランド生まれ、第二次世界大戦中パリのポーランド人亡命者グループの反ナチ抵抗運動に参画、その後メキシコに亡命、46年帰化した世界一流のヘンリック・シェリングがいるが、ユダヤ人かどうか定かではない。今年3月2日夜逝去したことが2日後日本で新聞報道された●さてユダヤ人とバイオリンの歴史的な血の繋りを如実に物語るフィクションがある。ここでは映画の方を取り上げるが、原作はプルーストの『スワンの恋』である。舞台は19世紀末のパリ。ユダヤ人株式仲買人の息子で、上流社交界の花形、美術に造詣の深い洗練された教養人、女好きのディレクタントであるシャルル・スワンはほとんど赤毛に近いブロンドの髪をプレッサン風に刈りあげた高い額の下に鷲鼻とみどりの目をもったブルジョワである。周りの反対も顧みず、また彼自身が、自らの欲望をかきたてるものではなく、むしろ一種の肉体的な嫌悪感さえ起こさせたという印象を持ったにも拘らず、《健康で、ぼってりとした、バラ色の肉体》の高級娼婦オデット・ド・クレシー夫人に……彼の美術コレクションの一枚ポツティチェリの『ジェットロの娘ゼフォラ』に彼女が似ていることで恋愛を正に《教養的に》正当化し……彼女に慕情を募らせ、思いを遂げはするものの、彼の《教養的》恋愛感情に半ばつけ入られる形で結婚という罠にはめられてしまい、彼女は彼女でまんまと思惑通り貴族夫人の地位を掌中に収めることに成

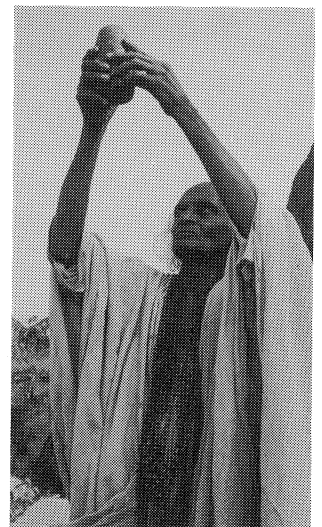
功するのである。何のために仕事・楽しみ・友人し  
まいには全生活をオデットとの逢いびきへの期待の  
ために犠牲にするのだろうかとか苦悩のただ中にある  
主人公を一気に彼女との恋愛へと至らしめることにな  
ったモチーフはゲルマント公爵邸で催された音楽会  
で演奏された、彼の苦悩のすべてを表現するよう  
なヴァントウイユの小楽節であった。それはバイオリ  
ンのかなり神経症的な弦の調べであった。精神的  
に《コペルニクス的転回》を経験した彼はこれを機  
に彼女への気持ちをはっきりさせる。映画の演出上  
興味深かったのはバイオリニストを演じたのが世界  
的には映画『屋根の上のバイオリン弾き』(1971)で  
すっかり有名になったブロードウェイで令名を馳せる  
ユダヤ人俳優ローランド・トポールであったこと  
だ。歴史的な意味でのユダヤ人とバイオリンの2枚  
岩的な密接な関係が物語と演出の二重構造に巧みに  
消化され、音楽会の豪華な雰囲気クラシックな映  
像に浮かび上がったのである ●1988.5.5. 端午の  
節句に記す ●

#### 【注】

\* 柳田国男『遠野物語』(1910)、折口信夫「座敷  
小僧の話」(『旅と伝説』1934.1)などに記述がある。

旧家に出没する子供の妖怪。深夜豪家の奥座敷に現  
われ、畳の縁や床柱を伝ってすたすたと歩き回り、  
寝ている人の枕がえしをする。これがあるとは家は富  
貴繁盛し、いなくなると家運が傾くという。出没を  
家の誇りとして丁重にもてなし、世間はこれを羨望  
する。家の神が具象化したこの霊的な存在は際立つ  
た特徴を持たず、極めて控え目である。いたずらをし  
たり、崇めることはなく、妖怪らしからず化けるこ  
ともない。そういう意味で /animate/ であるにも拘  
らず、霊としての独立性が稀薄で、物的な性格が強  
いとみてよさそうである。それ故にプレ・アニミズ  
ムの mana (これを所有すれば大きな利益を得よう  
な作用をもつ超自然的な力) に酷似していると僕は  
思っている。

\*\* ここではプレ・アニミズム=マナイズム (mana-  
ism) と考えている。スティーブン・スピルバーグ監  
監『インディ・ジョーンズ 魔宮の伝説』(1984)に登  
場する sacred stone は mana であり、悪人・邪教集  
団によって守護神の石 (sacred stone) が奪われたた  
めに村は衰退し、危機に瀕するが、主人公の活躍で  
神秘的な力を有する聖なるこの石が奪還され、村に  
平和が再来する。mana の特徴は善人にも悪人にも味  
方することである。



Sacred stone 争奪の  
主人公と邪教集団の首領

奪還された村の  
守護石を天に示す村の長

(映画『インディ・ジョーンズ 魔宮の伝説』より)

# 〈LL便り〉 テープライブラリー利用状況について

(1987年4月～1988年3月)

今回は、7つの統計資料を作成し、視聴覚資料の利用状況をまとめてみました。

まず、カセットテープの利用状況について言うと、利用者数としては、前年とあまり変わりませんが、一般的傾向として、各専攻語のテープ利用が非常に多かったように思います(③のグラフ参照)。これは、おそらく授業用テープのダビングを、それぞれ個別にやるようになったからで、これは④の表をみていただいてもわかります。

次に、ビデオの利用状況について言うと、利用者数は年々増加しており、分類別にみれば、やはり英語がTopです(③のグラフ参照)。これはソフト自体が多いので、当然のことなのですが、注目すべき点は、英語の中でも、だいたい利用するビデオが限定されているということです(表①参照)。こういった中で、専攻語ビデオを比較的良好に利用している語科をあえてあげるなら、中国語科でしょう(グラフ③参照)。

LL・視聴覚資料係としては、英語以外のソフトもできるだけ多く入れるよう心がけていますし、実際、除々には、ソフトが増えていきます。外国語大学だから聞くことのできるカセットテープ、また、外国語大学だから見ることのできるビデオを学生時代に、1つでも多く利用して下さればと思っています。

## ① カセットテープ及びビデオ Best 5 (授→授業で使用したもの)

### 〈カセットテープ編〉

1. Basic spoken French	授 (76)
2. 最新中国語教本(上・下)	授 (46)
3. 英検1級カセットブック	(45)
4. Говорим по-русски	(41)
5. Ta'llam al-Arabiya	(39)

### 〈ビデオ編〉

1. ローマの休日	(124)
2. 愛と青春の旅立ち	(84)
3. カサブランカ	(82)
4. 第三の男	(79)
5. 華麗なるギャッビー	(64)

## ② 分類別 Top 3 (授→授業で使用したもの)

### 〈カセットテープ編〉

#### 〔英語〕

1. 英検1級カセットブック	(45)
2. 英検2級カセットブック	(28)
3. リンガフォン・米語中級コース	(15)

#### 〔フランス語〕

1. Basic spoken French	授 (76)
2. Sans Frontieres 2	授 (27)
3. ノルマンディーの小さな村	授 (12)

#### 〔中国語〕

1. 最新中国語教本(上・下)	授 (46)
2. ヒアリング中国語	授 (15)
3. 中国語で学ぶ中国文化基礎知識	(13)

#### 〔アラビア語〕

1. Ta'llam al-Arabiya	(39)
2. Elementary Modern Standard Arabic	(18)
3. L'arabe sans painc	(13)

#### 〔ロシア語〕

1. Говорим по-русски	(41)
2. Русский язык для всех	(17)

### 〈ビデオ編〉(英語を除く)

#### 〔フランス語〕

1. 男と女	(36)
2. シェルブールの雨がさ	(34)
3. さよなら夏のリセ	(28)

#### 〔中国語〕

1. 郷音、ふるさとのしらべ	授 (46)
2. 工場長の日記	授 (38)
3. 西太后	(30)

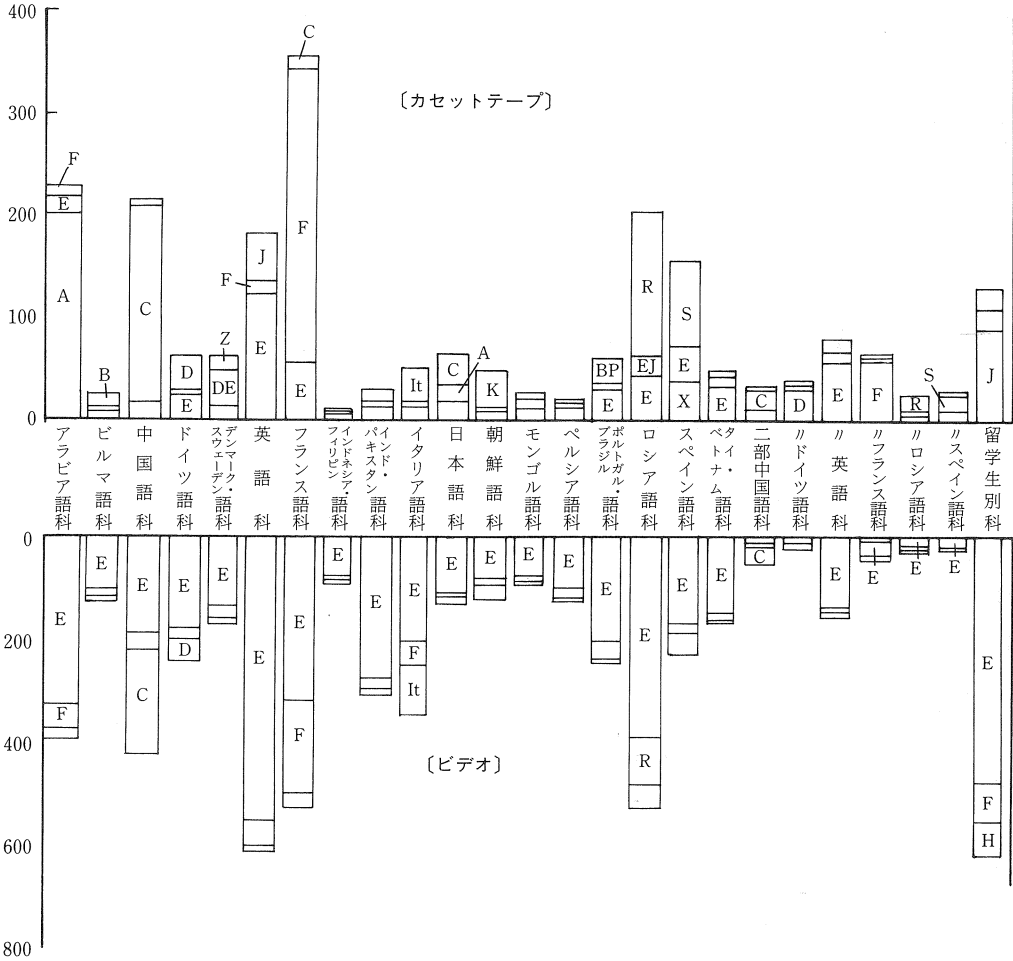
#### 〔イタリア語〕

1. ノスタルジア	(22)
2. 自転車泥棒	(18)
3. ルードヴィヒ・神々のたそがれ	(18)

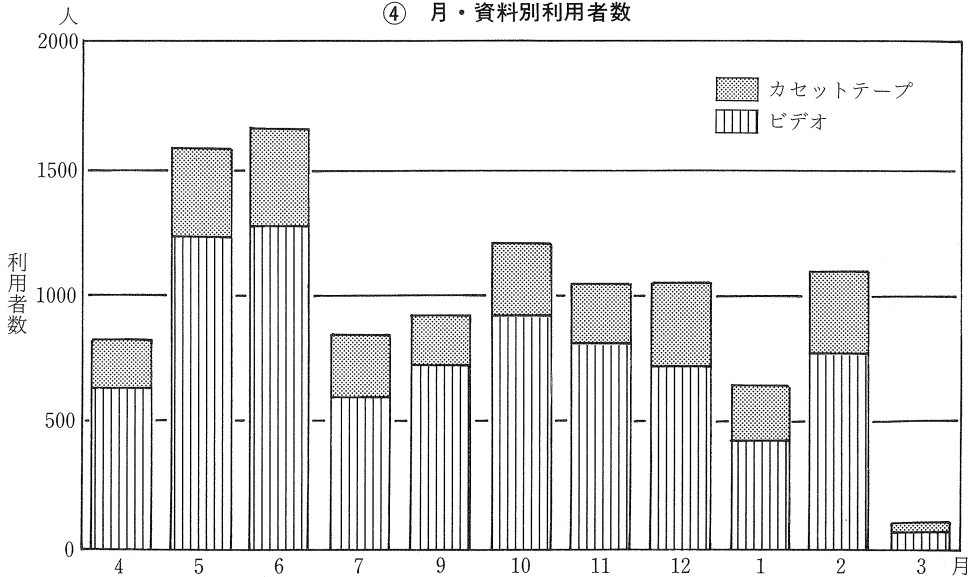
#### 〔ロシア語〕

1. 戦艦ポチョムキン	(34)
2. 惑星ソラリス	(19)
3. 母	授 (13)

③ カセットテープ及びビデオの語科別利用 Top 3



④ 月・資料別利用者数



⑤ テープ・ライブラリー、LL自習室利用状況統計表 (1987年4月～1988年3月)

(カセットテープ)

所 属	利用者数	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
F 152(266)	405	26	36	78	36	29	40	47	53	17	41	2
R 228(120)	274	18	37	19	31	16	33	21	23	20	42	14
A 169(150)	254	12	48	43	31	6	7	7	44	22	30	4
C 240( 98)	236	8	10	35	22	26	34	29	15	21	33	3
E 273( 85)	231	9	37	32	18	10	23	13	22	33	32	2
S 227( 80)	182	6	18	37	20	9	18	15	14	35	10	0
J 39(233)	91	3	16	16	8	3	9	10	11	5	10	0
D 144( 53)	77	10	6	11	2	1	8	6	10	6	16	1
DS 96( 74)	71	9	6	7	3	1	16	5	8	6	10	0
PB 108( 66)	71	2	5	11	6	0	7	12	16	2	10	0
IP 179( 33)	67	5	20	8	9	1	8	1	3	4	8	0
IT 134( 48)	64	1	9	9	7	8	2	4	12	8	4	0
TV 130( 46)	60	5	7	7	6	20	6	2	2	2	3	0
K 75( 73)	55	15	4	2	9	4	0	2	9	0	8	2
M 69( 52)	36	2	0	6	0	0	3	2	9	2	12	0
B 69( 43)	30	7	7	0	2	8	0	4	0	0	2	0
P 74( 32)	24	3	4	3	1	4	3	0	0	0	6	0
IN 133( 30)	4	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0
計	2,232	142	270	324	211	146	219	180	251	183	278	28
E (2部)	105	6	6	12	6	12	8	18	8	8	15	6
F (2部)	65	10	8	4	6	7	12	1	7	6	3	1
D (2部)	46	17	3	7	4	2	2	1	8	1	1	0
C (2部)	36	3	3	5	2	0	1	1	7	2	12	0
S (2部)	34	3	8	0	14	1	3	0	0	0	5	0
R (2部)	27	0	3	1	4	7	3	1	4	1	3	0
計	313	39	31	29	36	29	29	22	34	18	39	7
留 別	158	8	20	9	3	2	24	25	28	19	18	2
そ の 他	86	3	4	4	4	29	13	9	18	2	0	0
テープ持参	41	6	16	14	2	0	1	1	1	0	0	0
合 計	2,830	198	341	380	256	206	286	237	332	222	335	37

## (ビデオ)

所 属	利用者数	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A 169(310)	525	62	75	81	37	54	60	50	39	33	29	5
B 69(229)	158	8	10	30	7	11	17	19	25	14	17	0
C 240(244)	586	55	97	100	47	59	70	58	45	28	27	0
D 144(215)	310	24	50	43	34	33	44	18	24	12	25	3
DS 96(249)	239	19	21	41	21	19	42	20	23	12	15	6
E 233(285)	778	59	125	89	42	74	102	65	91	37	92	2
F 152(433)	664	55	102	167	32	75	48	56	62	25	42	0
IN 133( 80)	107	10	12	31	10	23	13	1	7	0	0	0
IP 139(249)	445	30	101	67	26	45	65	45	27	18	21	0
IT 134(345)	462	26	71	63	42	32	50	64	29	22	60	3
J 39(403)	157	2	6	25	8	16	29	22	18	8	22	1
K 75(236)	177	11	23	37	23	13	30	11	3	11	14	1
M 69(213)	147	15	21	14	7	20	17	19	12	1	21	0
P 34(272)	201	21	27	43	15	18	32	17	5	7	16	0
PB 108(267)	288	27	47	42	21	26	47	28	37	6	7	0
R 228(325)	740	58	161	112	49	43	94	82	63	22	46	10
S 227(140)	318	29	51	59	33	17	27	30	30	17	20	5
TV 30(175)	228	22	45	27	15	16	21	31	25	6	20	0
計	6,530	533	1,045	1,071	469	594	808	636	565	279	494	36
C (2部)	72	0	3	12	7	5	16	7	9	6	7	0
D (2部)	35	5	3	9	6	1	5	4	2	0	0	0
E (2部)	206	2	21	21	33	20	25	25	13	13	30	3
F (2部)	63	7	7	4	3	1	2	4	7	7	15	6
R (2部)	39	3	3	2	4	4	1	12	3	2	5	0
S (2部)	36	8	3	13	4	3	1	0	2	0	1	1
計	451	25	40	61	57	34	50	52	36	28	58	10
留 別	894	22	124	124	49	34	37	100	81	99	195	29
そ の 他	85	3	4	4	4	29	13	8	18	2	0	0
テープ持参	211	37	24	16	9	30	17	15	20	20	23	0
合 計	8,171	620	1,237	1,276	588	721	925	811	720	428	770	75

⑥ カセットテープ及びビデオ（映画編・各国編）の分類別利用回数

○カセットテープ編

区 分	利用回数
E	543
F	454
C	289
A	226
R	186
J	166
S	139
X	127
D	99
EJ	57
Z	56
IT	52
K	49
BP	37
DE	36
ZE	31
Y	30
V	23
EXEJ	23
T	17
B	16
FE	12
ST	10
IN	9
N	8
H	7
P	6
U	5
EF	4
TG	4
AX	2
EE	1
総 計	2,724

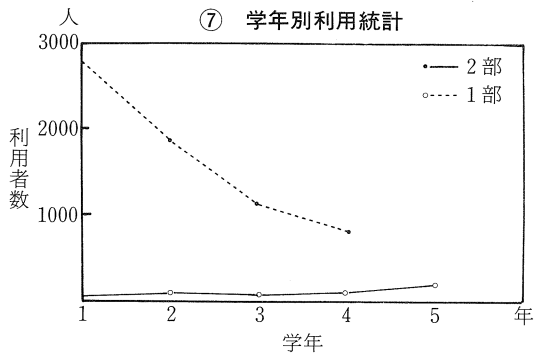
○ビデオ編 (映画編)

言語コード	利用回数
E	4,328
F	695
C	326
IT	266
R	168
D	134
J	116
S	106
H	79
SWED	63
X	61
PO	28
PH	21
TR	15
HUNG	14
DE	12
A	11
T	11
SRCR	7
WE	6
WT	5
G	4
N	4
CZ	3
UR	3
B	2
BP	2
IY	2
HE	1
V	1
総 計	6,494

(各国編)

言語コード	利用回数
JJ	119
ASJ	61
RJ	36
CJ	29
EUJ	27
ITII	27
SJ	20
X	19
DJ	10
AFJ	7
EJ	7
JE	7
EUFD	6
NJ	6
SS	6
KJ	5
BG	4
DEDE	4
ITJ	4
BB	3
FJ	3
RR	3
BPJ	2
EE	2
INJ	2
PP	2
TJ	2
AA	1
BJ	1
DEE	1
EC	1
EU	1
HJ	1
PHJ	1
PJ	1
ST	1
VJ	1
YR	1
総 計	434





★ 月別、LL テープライブラリー開館日数

8/4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
21日	19日	22日	8日	夏 期 休 暇	15日	21日	16日	17日	14日	20日	14日	187日
								(冬 休 み)			(春 休 み)	

[参考]

★利用が錯綜するため1987年度、下表の12件のビデオを予約制にしました。

<EXCEPTIONAL SHOW OF THE FOLLOWING FILMS>

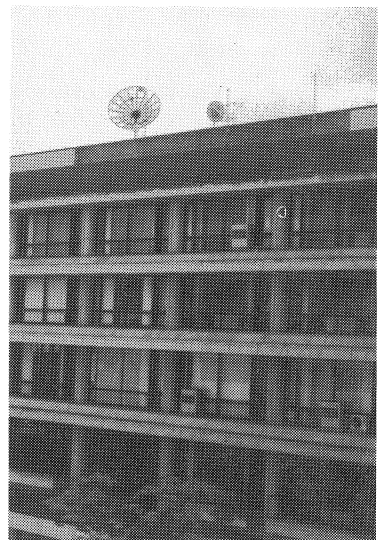
My fair lady	Westside story
Sound of music	Mary popins
For whom the bell tolls	Never ending story
Graduation	Rebel without cause
Champ	Billy Joel : Live from Long Island
Amadeus	The Rolling Stones

These films, their use being very frequent, will be on show at the A.V. Hall, exclusively for groups of more than ten persons, at a time hoped.

The groups should be constituted of those who request the same film at the same time.

For the request, please fill papers given.

Thanks. L.L.



<出版物案内>

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| ★家と世界……………溝上 富夫          | ……………生田美智子             |
| ★実践ロシア語教程 (和文露訳) ……小野 理恵 | コミュニケーション行為としての翻訳      |
| ★フィリピン語テキスト……………津田 守     | —成功の要件と不成功の原因—……乙政 潤   |
| ★視聴覚外国語教育研究 第11号         | フランス語2回生LL授業中のテープテスト   |
| コミュニケーション教育における体系的の      | および書き取りテスト結果報告         |
| 問題と母国語の役割                | —発音と聞き取りの問題点—……熊野真規子   |
| ……………A.V.サンニコヴァ 訳 小野理恵   | 「玉の海」(Lタマノ「ウミ)と「玉」の「海」 |
| コミュニケーションにおける非言語伝達手段     | (Lタマノ「ウミ) ………………郡 史郎   |
| 記述のこころみ                  | 中国見聞録または、私家版『大連日誌』     |
| —外国語としてのロシア語教授法の観点から—    | ……………林田 雅至             |

# 映像資料(レーザー・ディスク)所蔵一覧

その3

(1988年4月現在)

資 料 名	音 声	所要時間	分 類
Rio Revisited (ボサ・ノヴァ・スペシャル)	(ブラジル語)	0'57"	767.8 BP-003
阿羅漢	(中国語)	1'38"	923 C-037
西太后	( // )	2'10"	923 C-038
牧場・三個和尚・火童 (中国動画)	(中国語のみ)	1'58"	726 C-042
山中伝奇	(中国語)	1'57"	923 C-053
A better tomorrow (男たちの晩歌)	( // )	1'35"	923 C-054
A great wall (グレート・ウォール)	( // )	1'40"	923 C-055
Prodana nevesta (売られた花嫁)	(チェコ語)	2'18"	766 Cz-002
Inspiration ; Czechslovak Animation (水玉の幻想/チェコ・アニメーション)	( // )	2'00"	777 Cz-005
Der Rosenkvalier (ぼらの騎士 —喜歌劇—)	(ドイツ語)	3'12"	766 D-014
Tannhauser (タンホイザー —歌劇—)	( // )	2'56"	766 D-016
Der Freischutz (魔弾の射手 —歌劇—)	( // )	2'28"	766 D-017
Mozart : Aufzeichnungen einer Jugend (モーツァルト 青春への旅路)	( // )	2'00"	943 D-019
Chronik der Anna Magdalena Bach (アンナ・マグダレーナ・バッハの日記)	( // )	1'34"	760.28 D-028
Der amerikanische Freund (アメリカの友人)	( // )	2'06"	943 D-029
Love Story (ある愛の詩)	(英語)	1'30"	933 E-002
Godfather (ゴッド・ファーザー)	( // )	2'55"	933 E-008
Godfather Part 2 (ゴッド・ファーザー 2)	( // )	3'20"	933 E-009
Roman holiday (ローマの休日)	( // )	1'58"	933 E-027
The Sting (スティング)	( // )	2'00"	933 E-056
Psycho (サイコ)	( // )	1'48"	933 E-075
Billy Joel : Live from Long Island (ビリー・ジョエル・ニューヨーク・ライブ)	( // )	1'21"	767.8 E-083
Chariots of fire (炎のランナー)	( // )	1'58"	933 E-087
Gone with the wind (風と共に去りぬ)	( // )	3'51"	933 E-093
Revel without a cause (理由なき反抗)	( // )	1'51"	933 E-099
The Great Gatsby (華麗なるギャツビー)	( // )	2'23"	933 E-107
East of Eden (エデンの東)	( // )	1'55"	933 E-112
The Deer Hunter (ディア・ハンター)	( // )	2'20"	933 E-120
Dial M for murder (ダイヤルMをまわせ)	( // )	1'45"	933 E-134
For whom the bell tolls (誰がために鐘は鳴る)	( // )	2'10"	933 E-177
Ordinary People (普通の人々)	( // )	1'30"	933 E-178
Don't look back-Bob Dylan (ドント・ルック・バック : B.ディラン ロンドン 1965)	( // )	1'36"	767.8 E-195

資 料 名	音 声	所要時間	分 類
Theorem (テオレマ)	(英 語)	1'39"	933 E-196
Pigsty (豚小屋)	( // )	1'38"	933 E-197
Scarface (暗黒街の顔役 一スカーフェイス)	( // )	1'33"	933 E-200
Foreign correspondent (海外特派員)	( // )	2'00"	933 E-201
Rear Window (裏窓)	( // )	1'46"	933 E-203
Women in Rock (ウーマン・イン・ロック)	( // )	0'57"	767.8 E-226
Hard to handle (Hard to handle)	(英語のみ)	0'56"	767.8 E-227
The Beatles : a hard day's night (ビートルズがやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!)	(英 語)	1'30"	766.7 E-228
Hallo, Dolly! (ハロー・ドリー!)	( // )	2'26"	766.7 E-229
Doctor Dolittle (ドリトル先生不思議な旅)	( // )	2'24"	766.7 E-230
Fantastic voyage (ミクロの決死圏)	( // )	1'41"	933 E-231
Barry Lyndon (バリー・リンドン)	( // )	3'05"	933 E-232
King Kong (キング・コング)	( // )	1'40"	933 E-233
The Son of Kong (コングの復しゅう)	( // )	1'10"	933 E-234
Mighty Joe Young (猿人ジョー・ヤング)	( // )	1'34"	933 E-235
The Hunchback of Notre Dame (ノートルダムのせむし男)	( // )	1'57"	933 E-236
Wagon Master (幌馬車)	( // )	1'25"	933 E-237
The Fugitive (逃亡者)	( // )	1'39"	933 E-238
Citizen Kane (市民ケーン)	( // )	1'59"	933 E-239
Cross fire (十字砲火)	( // )	1'25"	933 E-240
All quiet on the Western front (西部戦線異状なし)	( // )	1'43"	933 E-254
Chaplin collection (チャプリン コレクション1-3, 7, 9)	( // )		933 E-255
12 angry men (12人の怒れる男)	( // )	1'36"	933 E-268
Stranger than paradise (ストレンジャー・ザン・パラダイス)	( // )	1'30"	933 E-280
Down by law (ダウン・バイ・ロー)	( // )	1'47"	933 E-281
Suspiria (サスペリア)	( // )	1'39"	933 E-289
Suspiria 2 (サスペリア 2)	( // )	1'45"	933 E-290
Anna Karenina (アンナ・カレニナ)	( // )	1'50"	933 E-291
Bringing up baby (赤ちゃんの教育)	( // )	1'42"	933 E-292
Sylvia Scarlett (男装)	( // )	1'26"	933 E-293
Slaughterhouse 5 (スローターハウス 5)	( // )	1'43"	933 E-294
Lawrence of Arabia (アラビアのロレンス)	( // )	3'22"	933 E-295
The Magnificent Amberson (偉大なるアンバーソン家の人々)	( // )	1'28"	933 E-296
Journey in to fear (恐怖への旅)	( // )	1'08"	933 E-297
The Trail (審判)	( // )	1'56"	933 E-298
Mr. Akadin (アーカディン/秘密調査報告書)	( // )	1'32"	933 E-299
Falstaff; chimes at midnight (オーソン・ウエルズのフオルスタッフ)	( // )	1'56"	933 E-300
Dr. Strangelove (博士の異常な愛情)	( // )	1'34"	933 E-301
Subway (サブウェイ)	( // )	1'42"	933 E-302

# 1988年度 LL授業時間割表

	教室	I	II	III	IV	V	1	2
		9:10~10:40	10:50~12:30	13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:20~19:40	19:50~21:00
月 MON	4-I			E スターク	E2A スターク	F2 熊野	F2 小沢	C 上神
	4-II		PH1 コイズミ	PH2 コイズミ	R1A 生田	R 生田	R 生田	
	5-I		F3・4 大木	D3・4 高田(株)	F1A 大木	F1B 小沢		F 小沢
	5-II		B3・4 エーベ		K2 奥田		E 正木	
	V.R. V.R.D)	H2 溝上	K1 金	J 梅田	哲 西村(浩)			
火 TUE	4-I		A イサム	E2 スターク	D1 高田(博)	It2 郡		
	4-II	U1 タバスマ	H1b マーラビリア	M1 荒井	M2 荒井			
	5-I	B2 南田	B1 南田	E1A 舟阪	E1B 舟阪			
	5-II	PH 津田	PH 津田	F ボロー	F ボロー	F ボロー		
	V.R. V.R.D)	C3・4 杉村 R1Ba プロトコヴァ	K1・2 金 R1Ab プロトコヴァ	It2 郡		Dm マーチン		
水 WED	4-I	SD1 ビスタム		PB2 東	C3・4 上神			D1 高田(博)
	4-II		V1 富田	P1 ラジャブ	D 高田(株)			D2 市川
	5-I	C1B 原	S2 アルパレス	S1 アルパレス				
	5-II	F ボロー	F ボロー	C3・4 上神	S アルパレス	It3・4 郡	It 郡	E 上野
	V.R. V.R.D)	PH2 ロランド	PH2 ロランド	It1・2 郡	B3・4 鈴木			2C 深尾
木 TEU	4-I	E2 斉藤(隆)	V2 富田		C1A 中山	It アミトラノ		
	4-II	C1 杉村	U1a マーラビリア	C 杉村	In アイブ	In2 アイブ		
	5-I	E1B 舟阪	Dm3・4 バルダン ミュラー		Dm バルダン ミュラー			
	5-II		R3・4 エーベ		Dm 福居			
	V.R. V.R.D)	H 溝上 R2ba プロトコヴァ	C2B 杉村 R2aa プロトコヴァ	「鑑賞シリーズ」	「鑑賞シリーズ」	R3・4 桜井		
金 FRI	4-I	D2 乙政	PB1 河野	C2A 上神	E 森岡	C 青野	E ドランス	E ドランス
	4-II	PH 津田	C2b 上神		D 野村		E 田路	
	5-I	R3a プロトコヴァ	R3b プロトコヴァ	SD ビッヒマン	SD2 ビッヒマン			S 大内
	5-II	F1B ボロー	F1A ボロー		D 友田			
	V.R. V.R.D)		K2 金 PH1 津田	K3 金	D 野村	PH1 松野		

A Vホール 水V 保健 松下 木III 「鑑賞シリーズ」  
 デジションルーム 金I・II 英語 スチュワート  
 金II 英語 船山

## 編集後記

⊕ Audio Visual Journal第14号をお届けします。  
 今春には、〈海外放送受信システム〉も完成し、いつでも海外からのリアルタイムな情報に接することができるわけで、多いに利用されんことを希望しています。

⊕ 本号では、視聴覚教育委員会からの「コミュニケーション研究教育センター」構想についてを掲載しましたが、特に次号(2月中旬特集号)でより具体的な案(現在小委員会で検討中)を

提起するつもりです。多くの方々の寄稿・ご意見をお寄せ下さい。

**AV Journal ー第14号ー**

1988年12月12日発行

編集 大阪外国語大学視聴覚教室委員会  
 附属図書館視聴覚資料係  
 発行 大阪外国語大学  
 印刷 (株) ムラタ印刷